

合格体験記

大阪市(中学校・数学)に合格 K.K.さん

Q なぜ教師を目指したのですか？

A もともと中学生の時から、それまで通っていたラグビースクールでコーチの補助をしていた時に、教えるという事の楽しさ、おもしろさを感じた事が教員を目指すきっかけになりました。その思いから大学に入ってすぐ中学生の時に通っていた塾でアルバイトを始めました。ほとんどの私の考え方、情熱、面接で話す内容がこの塾で培われていきました。そして、教師を目指した理由も塾での経験でした。それは去年、悲しい事に生徒を自殺で亡くすという事でした。自分自身、その塾では塾なのにコミュニケーションをとり、生徒の悩みを聞くことができると、そんな思いで働いてきたのに、その生徒の苦しみに全く気づけなかったことの、悔しさと悲しさ、自分自身のふがいなさで、教育の現場からも離れてしまおうかと考えた時もありました。ですが、もし私が学校にいたなら、もしバイトじゃなくて社員やったなら、そんな思いが全く薄まらなかった事、1年以上たった今でも、理由が家庭の事だと知っても、なぜあの時何もできなかったのかという思いが強く、一度もしかたなかったなんて思えないこと。そんな事を思える私が教師にならないでこれからの生徒がどうやって幸せになるのかという思いから、そしてもう二度とそんな悲しい思いをする生徒がでないようにしたいという思いから、教師になりたいと思うようになりました。

Q 教員採用試験に向けて

①いつから勉強しましたか？

A 塾に就職してからいずれ教員を目指す気でいたのですが、単に塾内のゴタゴタから、社員になる選択肢を今年の4月に消し、急に採用試験を受ける事になったので、勉強の開始は4月の終わりくらいからです。

②勉強する際、どのような教材を使っていましたか？

A 恥ずかしながら取得単位不足から、履修している授業も多く、毎日塾で働き、毎日が忙しかったので、バイトで培った一般教養と、面接に勝負をしぼったので、教材は主に過去問を使っていました。

③息抜きの方法は？

A 特にありませんが、強いて言うなら、塾の生徒と話をすることです。

④眠気対策は？

A 忙しさから、きちんと睡眠時間をとったため眠気対策はありません。

⑤1日何時間勉強していましたか？

A 勉強は空いている時間に不定期でやってきました。

⑥大阪府以外の対策は？

A 他府県に採用される事より、大阪府で講師をする事の方が、私にはしたい事だったので、大阪府以外は考えませんでした。

Q 教職ナビについて

①どのような点が良かったですか？

A 教職ナビでは、自分の弱い教職教養をみんなで教えあう時間もあり、ほぼその時に入れてもらった知識で試験に臨んだところ、教職教養でも、そんなに大きく点を落とす事はなかったので、本当にナビのおかげで合格したと思っています。

②教職ナビでは、どのような活動をしましたか？

A 活動では、ディスカッションやロールプレイでも、試験に向けてどうするかではなく、教員になってからどうするかを考えて取り組んでいた事も、面接でいきたと思います。

Q 面接対策はどのようにしていましたか？

A 面接な対策は後輩には参考にさせてあげられないかもしれませんが、経験をどれだけつんだかを武器に試験に向かいました。とにかく毎日塾に行き、とにかく多くの生徒とコミュニケーションをとり、少しでも多く生徒の事を考えた分が、合格につながったと思います。そして私自身は運のいい事に面接という場所でも、自分の考えを話す事が苦手でなかったので、面接練習もあまりしませんでした。ただ、とにかく生徒と接している時間を大切にしてきました。だから、もし私を参考にするのなら、ボランティアでも塾でも生徒と接する機会を少しでもとっていて欲しいと思います。そして、少しでも生徒のためと思って動いて欲しいです。できればお金をもらって、しかも入試という人生の岐路を世話する塾などで、責任を背負って生徒と接して欲しいです。

Q 来年から教壇に立つわけですが、どのような先生になりたいですか？

A 来年から私は教師になります。まずは、不可能な理想論かもしれませんが、私と会った全ての生徒が幸せな中学校生活を、そしてその後の人生を歩ませられる教員になりたいです。そのために、常にどんな時も自分自身が上を目指し、成長し続け、生徒も共に成長させられるような教師になります。もしもいつかどこで見た私が、手を抜いて生きていたなら、注意してください。きっと自分のまだ伸びる幅を教えてもらったと、喜ぶと思うので。

Q 後輩にメッセージをどうぞ。

A 一足先に教壇に立ちます。少し先の未来に仲間としていっしょに、より多くの生徒と接することができるのを楽しみにしています。また、試験対策だけでなく、教員になってからのため、そして教員になってからでも、私の経験や考えを聞きたくなったらいくらでも声をかけてください。協力は惜しみませんので。